

一 般 質 問 通 告 表

令和8年第3回始良市議会定例会（9月1日）

1. 谷山 弥生		
1. 公共施設等における生理用品の設置状況について	(1) 公共施設における生理用品設置の状況を示せ。 (2) 公立小中学校内のトイレへの設置について、把握している状況を示せ。 (3) 公共施設および、学校内で「誰にも知られずに利用」できる仕組みや取組があれば示せ。 (4) 公共施設のトイレ内において、生理用品の個室設置を今後どう考えるか見解を問う。	市 長 教育長
2. 女性視点での防災対策について	(1) 本市における避難所運営マニュアルの中で、特に女性避難者に対して配慮している対策等を示せ。 (2) 避難所運営の際、女性職員の配置計画を示せ。 (3) 被災者用災害備蓄物資の配備・備蓄等の内容を示せ。 (4) 防災会議等における、女性職員および女性有識者の参加比率を示せ。 (5) 避難所指定をされている施設のエアコン設置状況、および小中学校の体育館への設置状況を示せ。	市 長 教育長
3. 意思決定の場での女性参画について	(1) 現在、本市の女性職員の割合を示せ。 (2) 各種審議会での男女比を示せ。 (3) 新規職員採用の男女比を示せ。 (4) 男女平等推進における、数値目標を示せ。 (5) 現状の認識と今後の課題について見解を問う。	市 長
4. ジェンダー視点を取り入れた市政運営について	(1) 始良市男女共同参画基本計画の達成状況を示せ。 (2) 担当課以外の各部局での取組状況について把握している内容を示せ。 (3) 「男女平等」を市政の課題としてどのように考え、どう位置付けているか問う。 (4) 職員に対するハラスメント相談窓口と相談体制を示せ。 (5) 育児や介護などの理由による休暇取得の男女比を示せ。 (6) 令和9年度予算の中身に対し、「ジェンダー」を意識した取組を反映していく考えはあるか。具体的に進めている内容があれば示せ。	市 長

2. 桃木野 幸一		
1. ホテル誘致について	去る6月議会において始良市トレーニングキャンプ奨励金制度ができた。この制度は、本市においてスポーツ等を実施する県外の団体に対して宿泊費等を補助する制度である。この制度を実りあるものにするためにも、200～300人収容可能な施設を併設するホテルが必要と考える。過去において条例化してホテル建設に補助金を出す計画があったが、結果を見なかったわけである。 (1) 令和5年、6年、7年度末の宿泊能力はどのような状況か示せ。 (2) 令和5年度から7年度までスポーツ関係の大会で本市にどのくらいの参加があったのか示せ。 (3) ホテル建設に対する助成を条例化して補助金を設け、ホテル誘致に取り組むべきと思うが考えを示せ。	市長
2. 加治木港の活用について	最近の全国的な集中豪雨や熊本地震あるいは過去の大規模水害等を教訓にすると、交通網の確保や物資の補給、福祉的なサービスといった点が課題として挙げられる。過去、加治木港は国道10号や高速道路が通行不能になった時、鹿児島への船が出て貴重な交通手段となった。 また、マリンポートに大型客船が入ると最大5,000人の観光客が乗船している。そこで、桜島フェリー等を活用して、始良市内の観光等に結びつけば始良市の活性化にもつながるものと思う。 これらのことから、県や鹿児島市と連携して防災や観光の面から加治木港の利活用を図るべきだと思うが、考えを示せ。	市長
3. 龍門滝温泉について	昨年8月の豪雨災害で龍門滝温泉は大きな被害を受け、市において被害調査が行われたところである。 被害額はいくらになるのか。また、今後は補修になるのか、場所の移転も含め建て替えになるのか方針を示せ。	市長
4. 災害時における対応と支援状況について	(1) 最近の豪雨や熊本地震による避難所において特に体育館にクーラーがないことが問題となっている。 始良市指定避難所は66箇所とされているが、クーラーの設置率を示せ。また、未設置の箇所についての今後の対応を示せ。 (2) 昨年8月の豪雨災害時に家庭にある井戸が貴重な水源	市長

5. 中部横断道路建設や国道10号の整備等について	となったとのことから、市として市内全体を調査することであった。 市内の井戸の数を示せ。また、その中で飲料水として利用できる割合はどのくらいか。 (3) 始良市が所有している給水車は何台か示せ。 (4) 熊本地震に派遣したこれまでの職員などの支援状況を示せ。 (5) 熊本県益城町と災害協定を結んでいるが、始良市からの支援状況を示せ。 (6) 派遣職員からの体験談や今後における教訓とすべき内容はどのようなことであるか示せ。 (7) 障がいのある方々に対する個別避難計画の策定状況を示せ。 始良市内の国道10号における朝夕の渋滞は特にひどい状況になっていることから、その解消に向けて、昨年6月に加音ホールで中部横断道路建設促進決起大会が多くの市民等が参加して行なわれたところである。 (1) 決起大会後の中部横断道路建設促進に向けての市の取組を示せ。 (2) 国道10号整備に向けての最近の市の取組を示せ。	市 長
3. 岩下 陽太郎		
1. 森林環境譲与税を活用した不登校児童生徒への体験型教育支援について	本市の豊かな山林の利活用は、市の発展に直結する重要課題である。この貴重な資源を持続可能にするには、次世代の子どもたちが森林の役割を主体的に学ぶ「森林学習」の推進が極めて重要だと考える。 一方で、教育委員会では不登校児童生徒に対し、「ふれあい教室」の運営など、多様な学びの機会の確保に尽力されていると認識している。 そこで、森林環境譲与税を活用した新たな学習アプローチとして「体験型森林学習プログラム」を導入し、部局の垣根を越えて連携した事業を構築すべきではないかと考え、以下の内容を問う。 (1) 本市における森林資源の持続可能性に向けた「森林学習」及び「木育」の現在の推進状況と今後の展開。 (2) 不登校の児童生徒が学校外で安心して過ごし、社会性	市 長 教育長

2. 流域治水について	を育むための多様な居場所の確保や学びのアプローチに対する現在の取組と課題。 (3) 不登校児童生徒の心理的安定や自己肯定感の回復を目的とした、自然環境を活用する「体験型森林学習プログラム」導入の有効性。 (4) 農林水産部と教育委員会が緊密に連携し、森林環境譲与税を特定財源として活用した「始良市型・森の教育支援事業」の構築に対する教育長の見解を問う。 本市は令和7年8月に市制施行以来最大規模の大雨災害に見舞われ、現在も各地で復旧工事が進められている。 別府川をはじめとする河川の改修や、将来の災害リスク軽減に向け、国・県と連携した「流域治水」の推進は一刻を争う最重要課題であると考えます。 そこで、本市が策定に関わる「別府川水系流域治水プロジェクト」の進捗状況、並びに市内主要河川における今後の防災対策について、以下の内容を問う。 (1) 昨年の豪雨災害における実際の浸水エリアと、県が公表している「洪水浸水想定区域図」との差異に関する本市の検証結果における別府川水系をはじめ市内主要河川での状況と、今後のハザードマップの見直し。 (2) 本市が掲げる「耕作放棄地を活用した流出抑制施設の整備促進」において、現在の具体的な整備面積や箇所数などの進捗状況と今後の計画。 (3) 洪水流を阻害している「農業用取水堰の改築」において、市内のどの堰が対象となり、現在どこまで具体化しているのか。また、土地改良区等との合意形成を含め、本市の役割と県への働きかけの現状を問う。 (4) まちづくりの骨格となる「始良市立地適正化計画」において、水害リスクを踏まえた「防災指針の追加」の改定状況を問う。	市長 教育長
--------------------	---	-------------------